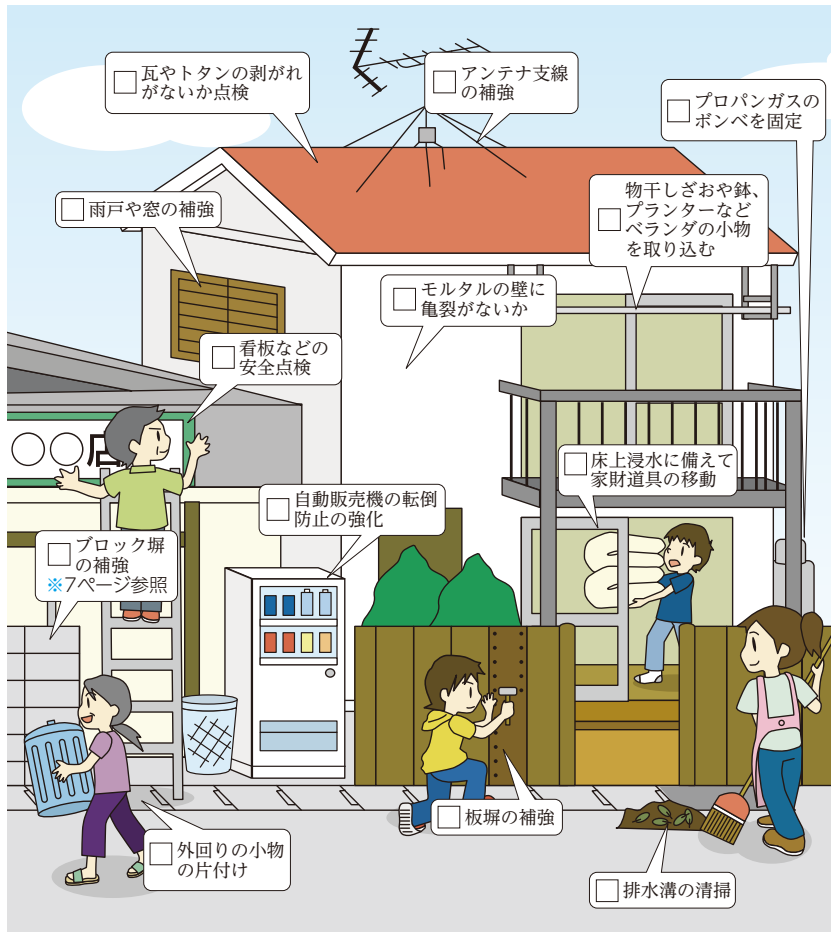




**チェックしましょう
家の周囲の備え**

災害を最小限にするために

皆さんの家庭では、台風や大雨に対する備えは万全でしょうか。家の中や周囲をしっかりと点検し、いざというときに備えましょう。



▼平成30年7月豪雨

風水害から命を守る

7月上旬に、西日本や東日本の広い範囲で記録した平成最大の大雨（平成30年7月豪雨）の影響で、各地で河川の氾濫や土砂災害などの未曾有の災害が発生しました。風水害などの被害を最小限に抑えるためには、日ごろの備えと、気象情報・避難情報の適切な入手、早めの対応・避難を心掛けることが大切です。

ページ番号
1003223

いつ起きるか分からない災害の被害を最小限にとどめるために、家の周囲の備え、非常持出品・備蓄品の準備を確認しておきましょう（上の図）。また、特に鬼怒川・田川・姿川、崖地・渓流の周辺に住んでいる人などは、ハザードマップ（市

家族で話し合う

ステップ1

家族を守るための備えは

（HPから取り出し可）を活用し、河川の氾濫や土砂崩れなどによる被害を最小限にできるよう、地域の災害リスクなどを確認しておきましょう（右の記事）。避難場所などは、各区で配布している「我が家の防災マニュアル」などで確認し、家族で災害時の行動を話し合います。

ハザードマップを活用しよう

ページ番号
1003241

■ハザードマップとは 河川の氾濫による浸水想定区域や、土砂災害により住民の生命・身体に危害が生じる恐れのある区域を記載した地図です。本市では、鬼怒川・田川・姿川の氾濫を想定した「洪水ハザードマップ」と「土砂災害ハザードマップ」を作成しています。

■ハザードマップを活用する ハザードマップは、河川課（市役所8階）、各区に置いてある他、市HPからも取り出せます。自分が住んでいる地域のどこで洪水や土砂災害の危険性があるのかを把握するとともに、避難所や避難ルートを確認するなど、有事の際、安全かつ迅速に避難するためにご活用ください。

☎河川課 ☎(632)2685



▲土砂災害ハザードマップ



▲鬼怒川洪水ハザードマップ

◎災害に対する義援金を受け付けています △受付期間 平成30年大阪府北部地震=9月28日まで。平成30年7月豪雨災害=12月28日まで△受付場所 保健福祉総務課（市役所2階）、保健と福祉の相談窓口（市役所1階）、保健所（竹林町）、各区・区、市社会福祉協議会（中央1丁目・総合福祉センター内）△その他 お受けした義援金は、日本赤十字社を通して被災地へお送りします。なお、市の窓口では領収書を発行できませんので、あらかじめご了承ください。☎保健福祉総務課 ☎(632)2919

△受付期間 平成30年大阪府北部地震=9月28日まで。平成30年7月豪雨災害=12月28日まで△受付場所 保健福祉総務課（市役所2階）、保健と福祉の相談窓口（市役所1階）、保健所（竹林町）、各区・区、市社会福祉協議会（中央1丁目・総合福祉センター内）△その他 お受けした義援金は、日本赤十字社を通して被災地へお送りします。なお、市の窓口では領収書を発行できませんので、あらかじめご了承ください。☎保健福祉総務課 ☎(632)2919

ページ番号
1014516

本文中に記載がないものは、原則として、対象外です。費用は無料、申込み不要（定員の記載があり申込みの記載がないものも、当日、直接会場へ）。HPはホームページ、Eメールアドレス、地区市民センター、出張所、生涯学習センター、参議院のみや表参道スウェーデン、地域コミュニティセンター、活用市民活動センター、申込み時に記載する基本項目は、催し名・郵便番号・住所・氏名・ふりがな・電話番号・人数。

登録制防災情報メールの登録方法

- 1 市の携帯電話用HP <http://utsunomiya.mw.jp/mobile/> にアクセス。
- 2 「登録はこちら」を選ぶ。
- 3 宛先が自動的に入力されるので、空メールを送信。
- 4 しばらくすると市からメールが届く。
- 5 メールを開くと、「下記のURLにアクセスしてください」と表示されるので、選んでアクセス。
- 6 メールで受け取りたいサービスを、「消防出動情報」「防災情報」の2つから選ぶ。
- 7 「登録」を選んで完了。



特集 ③

非常持出品 最低限そろえておきたいもの

避難するときに持ち出す最小限の必需品。すぐに取り出せる場所に保管することも大切です。

- 懐中電灯**
できれば1人に1つ用意。予備の電池と電球も忘れずに。
- 携帯ラジオ**
小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものがよい。予備の電池は多めに。
- 貴重品**
現金、預・貯金通帳、印鑑、健康保険証など。
- その他**
ヘルメット、マスク、上着・下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、生理用品、紙おむつ、哺乳瓶、携帯トイレなど。
- 非常食・水**
乾パンや缶詰など、火を通さずに食べられるもの。水はペットボトル入りが便利。乳幼児がいる場合は、粉ミルクとお湯も忘れずに。
- 救急医薬品**
傷薬、ばんそうこう、解熱剤、風邪薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに用意。

備蓄品 災害後に備えるために

災害復旧までの数日間を自活するためのもの。少なくとも、災害後3日間は自活できるように準備をしておきましょう。

- 水**
飲料水は大人1人当たり、1日3リットルを目安に準備。ペットボトルの他、ポリ容器に水をためておくも便利。
- 食品**
缶詰やレトルト食品、ドライフーズなど、そのまま食べられるものや、簡単な調理で食べられるものを準備。チョコレートやあめ、梅干しなども。
- 燃料**
卓上こんろや固形燃料、予備のガスボンベなど。
- その他**
毛布、寝袋、洗顔用具、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、ロープ、パール・スコープなどの工具、マスク、トイレ用紙、予備の眼鏡、ドライシャンプーなど。

ご確認ください
ブロック塀などの安全対策

ページ番号 1016408

6月18日に発生した大阪府北部地震(最大震度6弱)により、石塀やブロック塀が倒壊し、死傷者が出るなど大きな被害が発生しました。ブロック塀などが倒壊しないための最低基準は建築基準法に定められていますので、改修や新設の際は、基準を守ってください(下の表参照)。

また、既存のブロック塀なども、設置の状況や劣化の具合によっては倒壊の恐れがありますので、塀の所有者は、安全点検を行い、危険性が確認された場合は、貼り紙などで通行者に注意表示をしてください。不安がある場合は、建築士などの専門家に相談してください。

ブロック塀(石塀)の最低基準(※)

項目	基準()内は石塀
塀の高さ	2.2(1.2)m以下
壁の厚さ	高さ2m超=15cm以上
	高さ2m以下=10cm以上
壁の内部鉄筋	鉄筋の径 9mm以上
	間隔 80cm以下
控壁	幅 塀の高さの5分の1倍以上(壁の厚さの1.5倍以上)
	間隔 3.4(4.0)m以内
基礎	根入れ 深さ30(20)cm以上
	丈 35cm以上

※国土交通大臣が定める構造計算などにより構造耐力上安全であることが確かめられた場合についてはこの限りではありません。

☎建築指導課 ☎(632)2574

ステップ2

正しい情報を迅速に入手

防災情報を入手する

災害時に、市民の皆さんが迅速かつ確実に防災情報を入手できる手段として、登録制防災情報メールや緊急登録メールがあります。

■登録制防災情報メール
市に關係する防災情報など、事前に登録した人、メールで次の通り配信します(左上の記事)。

▽気象警報・土砂災害警戒情報などの気象に関する情報。
▽避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)などの情報。

■緊急登録メール
市内の携帯電話へ、市域における避難情報を一斉配信します。事前登録の必要はありませんが、携帯電話の機種や通信状況などにより、配信されない場合があります。詳しくは、携帯電話販売店にお問い合わせください。

■その他市からの情報
避難情報の他、避難所の開設状況・災害の影響に伴う各種情報などを、とちぎテレビ・栃木放送・エフエム栃木・コミュニティFMミヤラジなどのメディアへ、随時、情報提供します。また、市HPや携帯サイト、とちぎテレビのデータ放送などを活用して、市域の被害状況などをお知らせします。

◎災害時などの緊急時にはコミュニティFMミヤラジ周波数77.3MHz(メガヘルツ)をお聞きください
大規模な災害時などの緊急時には、必要に応じて、通常の放送時間、放送休止時間(午後10時~翌朝午前7時)にかかわらず、災害などに関する情報を発信していきます。また、緊急の放送が必要と市が判断した場合は、臨時的に市職員による放送を行います。災害時には、皆さんの安全確保のため、ミヤラジをご活用ください。☎宇都宮コミュニティメディア ☎(666)7897、広報広聴課 ☎(632)2028

ページ番号を市HPのトップページに入力してください。関連ページが見られます。

土砂災害の危険信号

土砂災害とは、土砂の移動が原因となる自然災害のことです。集中豪雨などを原因とする土砂災害はもちろん、近年は大規模な地震に伴い土砂災害が発生するケースも多く見られます。

■土砂災害の前兆に注意 避難勧告が出なくても、以下のような危険を感じたら、周囲の人に知らせて自主的に避難しましょう。▽雨が降り続けているのに、川や沢の水が減る。

▽川の流れが濁り、木が流れてくる。

▽小石がパラパラ落ちてくる。

▽山鳴りがする。

▽斜面から水が湧き出ている。

▽地面にひび割れができる。

■土砂災害から身を守る 大雨が一番強く降ってから1時間以内、または3・4時間後を中心にがけ崩れなどの土砂災害が発生しやすくなります。しかし、これは

目安であって、この時間を過ぎてても土砂災害が発生しないとは言いきれません。状況を把握し、適切な対応や避難を行いましょう。



気象情報を正しく理解するために

テレビやラジオなどで提供される気象情報を正しく理解し活用するために、風水害に関する気象用語について解説します。

雨の強さと降り方

■やや強い雨(1時間に10~20mm)

地面一面に水たまりができ、雨の音で話し声がよく聞き取れなくなります。長雨になりそうなら、注意が必要です。

■強い雨(1時間に20~30mm)「土砂降りの雨」です。

傘を差していてもぬれてしまうほどです。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。

■激しい雨(1時間に30~50mm)「バケツをひっくり返したような雨」です。寝ている人の半数くらいが雨に気が付き、がけ崩れ、山崩れなどが起きやすくなります。

■非常に激しい雨(1時間に50~80mm)「滝のような雨」です。水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。傘が全く役に立たなくなり、浸水など多くの災害が発生する可能性があります。

■猛烈な雨(1時間に80mm~) 猛烈な雨により、息苦しくなるような圧迫感があります。雨による大規模な災害の発生する恐れが強くなり、厳重な警戒が必要です。

気象台が発表する気象情報(大雨)

※特別警報について、詳しくは、気象庁HP <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/kuow/tokubetsu-keiho/> をご覧ください。

大雨に関する気象情報
警報・注意報に先立って発表

大雨注意報

大雨によって災害が起こる恐れがあると予想される

大雨警報(土砂災害) 大雨警報(浸水害)

大雨によって重大な災害が起こる恐れがあると予想される

土砂災害警戒情報

土砂災害の危険性が、さらに高まった

大雨が降り続き、**重大な災害が起こる危険性が非常に高まった**

大雨特別警報

ただちに命を守る行動を!

ステップ3

台風・大雨が発生したら

気象情報を確認する

気象台では、警報と注意報を市町ごとに発表しています。テレビやラジオなどでこれらの情報を確認しましょう(上の図)。

注意報

災害が起こる恐れがあると予想される場合。警報 重大な災害が起こる恐れがあると予想される場合。

特別警報

警報の発表基準をはるかに超える豪雨や暴風などが予想され、重大な災害の危険性が高まり、経験したことのないような異常な現象が起きそうな状況。

避難情報を入力する

1 避難準備・高齢者等避難開始 人的被害が発生する危険性が高まった状況。避難に時間がかかる高齢

安全避難のポイント

安全な服装で ヘルメットで頭を保護し、ひもで締められる運動靴を履きましよう。はだしは怪我をしたり、長靴は足を取られたりする危険性があります。

避難準備・高齢者等避難

者や障がい者などの要配慮者とその支援者は避難を開始してください。また、通常の避難行動ができる人は、非常持出品の用意などの避難準備を開始してください。

避難勧告

人的被害が発生する危険性がさらに高まった状況。速やかに避難を開始してください。

避難指示(緊急)

人的被害が発生した状況。避難途中の人は、ただちに避難を完了させてください。外に出ることが危険な場合は、命を守る最低限の行動をしてください。

安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、ひもで締められる運動靴を履きましよう。はだしは怪我をしたり、長靴は足を取られたりする危険性があります。

本文中に記載がないものは、原則として、対象にならない。費用は無料、申込不要(定員の記載があり申込の記載がないものも、当日、直接会場へ)。HP: ホームページ、E: メールアドレス、R: 地区市民センター、O: 出張所、N: 生涯学習センター、M: つつのみや表参道スウェーア、C: 地域コミュニケーションセンター、S: 市民活動センター、A: 申込時に記載する基本項目は、催し名・郵便番号・住所・氏名・ふりがな・電話番号・人数。

命を守る最低限の行動



水平避難

垂直避難

危険な状況の中での避難行動はできるだけ避け、安全確保を第一に考え、避難場所へ移動（水平避難）してください。

川が氾濫するなど外に出ることが困難な場合には、自宅や近くの頑丈な建物の2階以上へ緊急的に一時避難（垂直避難）してください。

安全避難のポイント

■安全な服装で、持ち物は最小限に

ヘルメットで頭を保護。ひもで締められる運動靴を履き、荷物は背負い、両手が使えるようにする。



■車は使わない

車は数十cmの浸水でも浮いてしまい危険。他の避難者や緊急車両の妨げにもなるので、徒歩で避難する。



■隣近所で声を掛け合う

避難は2人以上で。隣近所を誘い集団で避難する。高齢者や障がい者などの要配慮者に配慮する。



■マンホールや側溝に注意

急激な大雨が下水管に流れ込むとマンホールのふたを開けてしまうことも。マンホールや側溝への転落に十分注意する。



■歩ける深さ

大人でも水深が50cmを超えてからの歩行は危険。避難をする際は、早めに避難する。



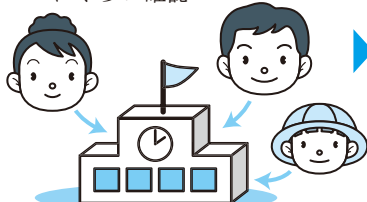
■ロープを使って体をつなぐ

はぐれないようお互いの体をロープで結んで避難。特に子どもから目を離さないようにする。



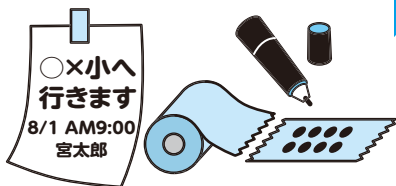
家族で決めよう 連絡ルール

1 集合場所・一時避難場所
避難経路も合わせて2ルートぐらい確認



2 どこに避難したかを書いておく
(家のどこに貼って置くかも確認)

ガムテープの上に油性フェルトペンで書くと便利



3 連絡の中継点となる遠方の親戚・知人を決めておく

その他、携帯電話がなくても困らないように家族や友人、連絡の取り次ぎをしてくれる人の連絡先を書いておきましょう。



- 持ち物は必要最小限に
荷物は必要品のみとし、背負って、両手が使えるようにしましょう。
- 車は使わない
車は数十cmの浸水でも浮いてしまうので危険です。他の避難者や緊急車両の妨げにもなるので、徒歩で避難しましょう。
- また、車を放置せず、なるべく道路の端に止めておきましょう。
- 歩ける深さの時に動く
大人でも浸水が50cmを超えてからの歩行は危険です。避難をする際は、早めに避難しましょう。
- ロープを使って体をつなぐ
はぐれないようお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないようにしましょう。
- 隣近所で声を掛け合う
避難は2人以上で、隣近所を誘い集団で避難しましょう。高齢者や障がい者などの要配慮者に配慮しましょう。
- マンホールや側溝に注意
急激な大雨が下水管に流れ込むとマンホールのふたを開けてしまうこともあり。マンホールや側溝への

市総合防災訓練

▽日時 8月18日(土)午前9時~正午。
▽会場 陽南小学校(大和1丁目)。
▽内容 自主防災会や防災関係機関による救出訓練、炊き出し訓練、避難所訓練、地震体験、非常食の無料配布など。
▽その他 車でお越しの場合は、栃木運輸支局・姿川中学校に駐車してください。なお、駐車場の利用可能時間は午前8時~午後1時です。
☎危機管理課 ☎(632)2052

転落に十分注意しましょう。長い棒などを使用し、確認しながら歩行しましょう。

命を守る最低限の行動

危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全確保を第一に考え、避難場所への移動（水平避難）してください（上の図）。

川が氾濫するなど、外に出ることが困難な場合は、建物の2階以上へ緊急的に避難（垂直避難）してください。ただし、家屋倒壊等氾濫想定区域内にお住いの人は、家屋が倒壊する恐れがあるため、速やかに避難所へ移動（水平避難）してください。

◎この特集についての問い合わせは、危機管理課 ☎(632)2052へ。